

事例研究報告

特別支援学校高等部生徒の作業 時間における集団行動への支援

生徒の実態

- ・ 社交的かつムードメーカー的存在で、誰とでもすぐに仲良くなれる。
- ・ 中学時代は学級が少人数で、本生徒と教員の一対一での学習が多かった。
- ・ 集団活動になればなるほど集中がそれやすい傾向があり、一斉指示のときはよそ見と聞き漏らしが多い。
- ・ 一度ボーツとしてしまうと、個別の指示が出るまでそのまま止まってしまう、何をしたら良いか自分から質問することはない。

教員の考え

「集中できるようになって欲しい」

「主体的に動けるようになってほしい。」



アドバイザーからの助言

「チェック表」を活用して視覚的に作業の役割や手順をわかりやすく提示しましょう。

まずは一人での作業に取り組み、最後まで責任を果たす経験に慣れてから、ペアやグループの中での役割を作っていくこと

を始めましょう。



指導目標の見直し

【長期目標】

一斉指示を聞いてメモを取り，指示通りに取り組むことができる。

【短期目標】

板書の指示をメモに写し，指示通りに取り組むことができる。

【指導目標】

作業項目を書いたチェック表を見て，ペアで指示通りに取り組む。

方法

【対象児】

高等部生徒，自閉症障がい

【指導場面】

作業（校内清掃）

【般化場面】

日常生活場面，授業場面

【教材】

作業項目を書いたチェック表

指導:ステップ1から2へ, スモールステップで

【ベースライン】

作業時間に板書の指示を見て, ペアの友だちと指示通りにできるか記録を取る。

【STEP1】

作業時間に作業項目を書いたチェック表を見て, 一人で指示通りにできるか記録を取る。

【STEP2】

作業時間に作業項目を書いたチェック表を見て, ペアで指示通りにできるか記録を取る。

記録方法と記録

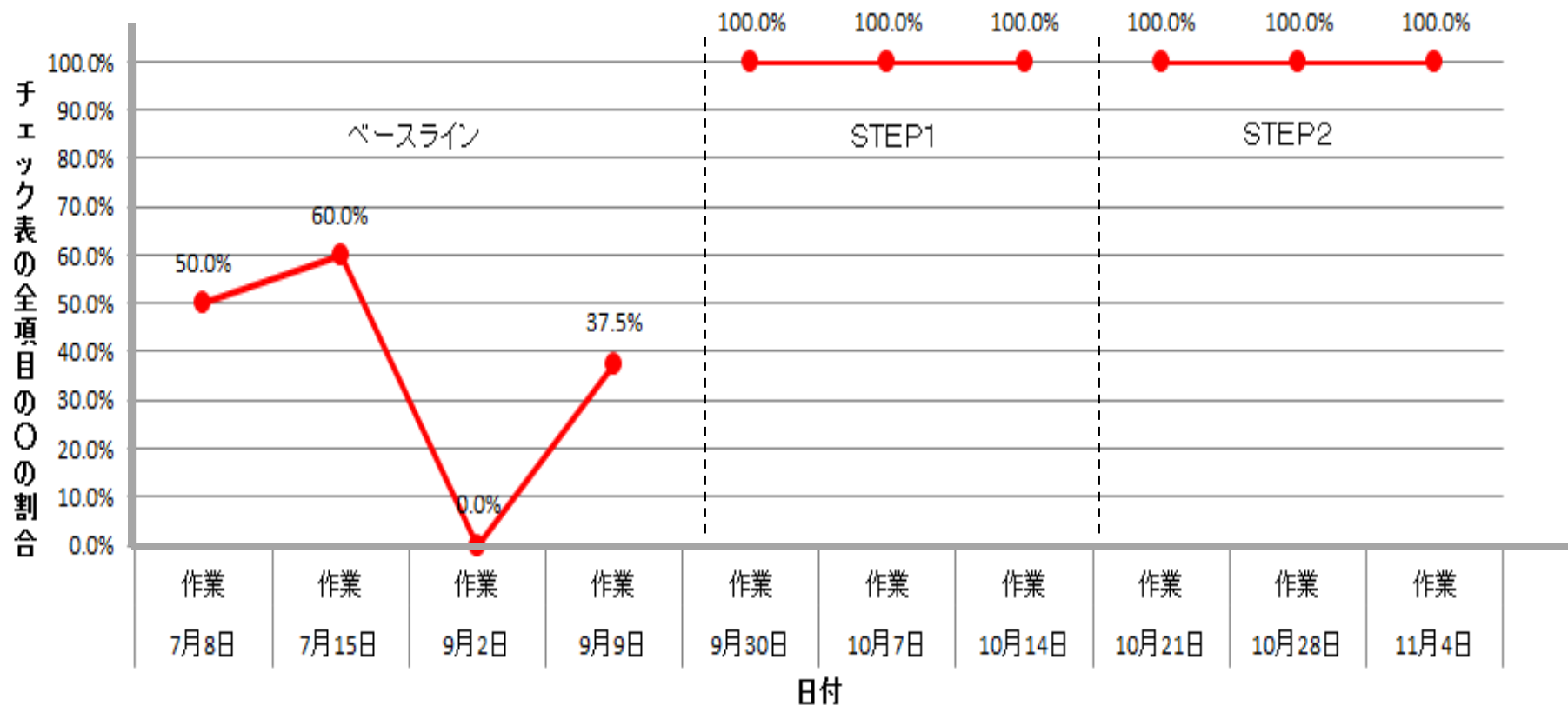
チェック表の項目ごとに、本生徒の行動を以下のように評価して記録する。

【評価】

- ・自分でできた・・・○
- ・個別の声かけや支援があってできた・・・△
- ・個別の声かけや支援があってもできなかった・・・×

指導の成果

チェック表があれば合間にボートとすることはなく、指示通りに取り組むことができました。ペアでの活動でも、事前にお互いの役割を明確に分担しておくことで、指示待ちにならずに動くことができました。



高等部1年生徒の作業場面における集団行動の指導

結果1：チェック表における達成率の割合

ここが成功のポイント



○チェック表で役割を明確にすることでボーンとすることが減り、指示通りに取り組めた。

○ステップ1では、1人での作業に取り組み、次にステップ2では、ペアの役割を設定し、スモールステップで進めた。